

神奈川 芸術プレス

vol.159

KANAGAWA ARTS PRESS

2022年(令和4年) 1月25日発行



特集

“劇場”からみる共生社会

—— 広場としての文化施設

ケーススタディ 大友良英インタビュー ほか 対談 栗栖良依 × 森山開次 インタビュー 濱口竜介、藤原徹平

コラム 青木 彬、内野 儀 ほか アートシーンプレイバック、C×(シー・バイ)シリーズ、公演の舞台裏



04 特集

“劇場”からみる共生社会

— 広場としての文化施設

06

ケーススタディ

広場としての文化施設とは？ — 3つの事例から —

1. 神奈川県立音楽堂『みんな！ たのしい音楽始めるよ、あつまれー！』大友良英インタビュー
2. 神奈川県民ホール『オープンシアター2021』音楽・美術でめぐる世界の旅
3. KAAT 神奈川芸術劇場「KAAT フレンドシッププログラム」
共生共創事業、横浜・紅葉ヶ丘まいらん

12

対談

パラリンピック式典から考える共生社会

栗栖良依(認定NPO法人スローレーベル 理事長) × 森山開次(ダンサー・振付家)

14

インタビュー

濱口竜介(映画監督／脚本家)

藤原徹平(建築家／フジワラテッペイアーキテクツラボ主宰)

16

コラム

それぞれの真実に寄り添うこと 青木 彬(インディペンデント・キュレーター)

「出羽守」の話を(も)耳を傾けるために — コロナ禍と公共劇場 内野 儀(演劇批評)



子どもと大人の音楽堂(子ども編)
『みんな！ たのしい音楽始めるよ、あつまれー！』
写真：青柳 聡

17 連載

REGULAR FEATURE

18

アートシーンプレイバック

2021年度のキッズプログラムをふりかえる
文：浦島茂世(フリーライター)2021年度のダンスプログラムをふりかえる
文：乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

22

C×(シー・バイ)シリーズ

C×C作曲家が作曲家を訪ねる旅 — 作曲家・山本裕之が武満徹を訪ねて

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員・協賛・協力・寄付 ご芳名

23

公演の舞台裏

衣装デザイナー編 伊藤佐智子

神奈川芸術プレス | 読者アンケート

(公財)神奈川芸術文化財団について

1993年10月に設立された神奈川芸術文化財団は、以下3つの県立文化施設の運営と、芸術文化の創造・普及に一体的に取り組んでいます。

神奈川県民ホール


神奈川県民ホール(以下、県民ホール)

1975年、全国屈指の大型文化施設として開館。大型の舞台機構を備える大ホール、オルガンが設置された小ホール、ギャラリー、会議室等を有する多目的ホールです。オペラ、バレエ、コンサートから各種大会・式典、美術作品の展示まで、多彩な催しが行われています。

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町3-1
TEL: 045-662-5901 (9:00~17:00)
<https://www.kanagawa-kenminhall.com/>

KAAT 神奈川芸術劇場


KAAT 神奈川芸術劇場(以下、KAAT)

2011年、モノをつくる(芸術の創造)、人をつくる(人材の育成)、まちをつくる(賑わいの創出)の「3つのつくる」をテーマとする創造型劇場として開館。最大約1,200席のホールの他に、大スタジオ(約220席)と、3つのスタジオを有します。

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町281
TEL: 045-633-6500 (10:00~18:00)
<https://www.kaat.jp/>

木のホール
神奈川県立音楽堂


神奈川県立音楽堂(以下、音楽堂)

1954年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館。前川國男設計による戦後モダニズム建築の傑作として評価されています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは人々に感動をあたえつづけています。

〒220-0044 神奈川県横浜西区紅葉ヶ丘9-2
TEL: 045-263-2567 (9:00~17:00 月曜休館)
<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

神奈川芸術プレス、 リニューアル

今号よりリニューアルした本誌。

発行が年2回となり、構成やデザインが新しくなりました。

大きく変わった点が2つあります。

- ①「特集テーマ」をひもとく読み物を中心とした広報誌に。
- ② 神奈川芸術文化財団の事業紹介にとどまらない「ひと」や「こと」も取り上げる。

わたしたちが目指すのは、

県域の、そして国内外の芸術文化状況を知り、

テーマに連動した新たな視点を見いだすことのできる広報誌です。

情報が行き交い、

立ち止まって考えることが難しくなっている世の中で、

考えるきっかけとなる言葉を編んでいきたいと思っています。

(公財)神奈川芸術文化財団が掲げる

4つのミッション

神奈川芸術文化財団の理念は、

芸術文化の力で人々の心を豊かにし、幸福な社会を目指すこと。

3つの文化施設(県民ホール・KAAT・音楽堂)は、

右の4つのミッションにもとづいて管理・運営されています。

当財団は多様な人たちに開かれた文化施設を目指しています。

創造に挑む

つねに考える

感動を
分かち合う

未来につなぐ

“劇場”から みる 共生社会

—— 広場としての文化施設

いま考える共生社会

劇場・音楽堂や美術館、映画館などの文化施設は、多様な人たちが集まり、関わり合うことができる場です。新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）感染拡大の状況下では、これらの場に足を運ぶことが難しくなったため、その役割をより強く感じる機会が増えたのではないのでしょうか。

リニューアル初号の特集では、これらの文化施設を誰もが集える“広場”として捉え、県域の様々な取り組みや、神奈川県にゆかりのある方々の表現を紹介します。

神奈川県では2016年の「ともに生きる社会かながわ憲章」策定後、共生社会の実現に向けた事業に積極的に取り組んでいます。また2021年度は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、県内でも活躍する文化人が多く関わったパラリンピックの開閉会式は話題を呼びました。

『劇場』からみる共生社会——広場としての文化施設』をテーマに、これらの時事的な状況も反映した複数の切り口でお届けするリニューアル初号。皆さまからのご意見も、アンケートでお寄せいただければ幸いです。

広場としての文化施設とは？ —3つの事例から—

本コーナーでは、当財団が運営する文化施設（県民ホール・KAAT・音楽堂）の主催公演をケーススタディとして、広場としての文化施設について考えます。また神奈川県が主催し、当財団が企画製作を担う「共生共創事業」、さらには紅葉ヶ丘エリアを中心とした文化施設同士が連携する取り組み「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」の事例もあわせてご紹介します。

写真：青柳 聡

“劇場”を 多様な人が集う場に

「共生社会」という言葉をよく耳にするようになった一方で、それはどんな社会なのかと自問する機会も増えました。本コーナーで取材した大友良英さんは、「共生社会の前提となるのは多様性」だと話します。

人々の心を豊かにする芸術文化だからこそ、障がいの有無や、年齢、言語の違いなどにより、体験に大きな違いが生じないよう、多様な人たちが楽しめる環境をつくり出そう——。本コーナーでは、当財団におけるこのような取り組みをふりかえります。

取り上げるのは、0歳から誰でも楽しめるコンサートや、手話通訳者や多言語スタッフが常駐し、託児も利用しやすいプログラム、そしてひらかれたアトリウムで、スマホを使って体験する朗読劇など。

“劇場”（今号では文化施設一般を含みます）からみた共生社会は、どのようなものか？ 誰もが集える広場のような場を目指した3つの事例を通して、読者の皆さまとともにあらためて考えていきたいと思います。



子どもと大人の音楽堂〈子ども編〉 大友良英スペシャルビッグバンド 初登場！

『みんなー！たのしい音楽始めるよ、 あつつまれー！』

2021年「神奈川県指定重要文化財」に指定された、前川國男の設計による県立音楽堂。響きのよい“木のホール”として親しまれています。そんな由緒ある場が音楽家・大友良英さんの手によって、“みんなが集まり自由に楽しむホール”に！ 2021年7月に開催したコンサートについて大友さんに聞きました。

——0歳から入場でき、出入り自由で会場も明るいまま。なかなか体験する機会のないコンサートです。

演奏する音楽や、バンドメンバーのカラフルな服装、客席への声かけなど、あらゆる細部で「みんないい」というサインを出すようにしました。人のふるまいは場所に規定されます。音楽堂のようなコンサートホールでは雰囲気づくりが大切。わざわざわ

ずしていたり、きつちりしなくていい感じをあえてつくりました。子どもがミュージシャンに質問するコーナーがあったり、数名に舞台上がって指揮をしてみもらったりして。

——新型コロナウイルス第5波が来る直前の開催になりました。

たくさんさんの子どものステージに上げたり、僕らが客席に入っている、コロナがなければもつと観客との距離を縮めたかった。でもその場にに応じてできることをやるだけなので、「これができなかった」とは思っていない。



ません。

——共生社会と音楽について、お考えを聞かせてください。

共生社会の前提となるのが多様性です。「共生」といっても、制服のように全員が同じものを志向するケースもある。そうではなく、多様な言語や文化がともにある状態が本質だ

と思います。音楽は、言葉が通じなくても拍子などで遊べるし、そもそも誰かとアンサンブルを組むのが基本です。異なる文化をもつ人同士と一緒に何かをするのに、音楽は向いているんじゃないかな。

——大友良英スペシャルビッグバンドのメンバーにも多様性がありますね。

クラシック、ジャズ、ポップスなど幅広いジャンルの男女が集まっています。異なるジャンルのミュージシャン同士と一緒にバンドをすることは、大きな挑戦になる。おまけに子どもが指揮をしたりして（笑）。「やり慣れたことをやらない」ためにはどうしたらいいか、考え続けているバンドですね。僕の役目は、わざと混乱を招くことも。答えではなく、問いを用意する。どう応えてもらえるかはわからないけれど、それがきっと面白いものになるだろうと信じてやっています。

聞き手・文…編集部
写真…大野隆介

子どもと大人の音楽堂〈子ども編〉 大友良英スペシャルビッグバンド 初登場！
『みんなー！たのしい音楽始めるよ、あつつまれー！』

日程 2021年7月30日

会場 神奈川県立音楽堂

主催 神奈川県立音楽堂

大友良英 おおとも・よしひで

1959年生まれ。映画やテレビの音楽の作曲に多く携わる。大友良英スペシャルビッグバンドは、NHK連続テレビ小説『あまちゃん』のサウンドトラックを演奏したメンバーによるグループ。バンドが手がけた楽曲はNHK大河ドラマ『いだてん』のテーマ曲など多数。



神奈川県民ホール

「すべての子どもと大人たち」に向けて劇場に足を運ぶ喜びを知ってほしいと、コンサートやバレエ、アート展など一日楽しめる企画として神奈川県民ホールが開催してきた「オープンシアター」。2年ぶりとなった今年度は、感染対策を施すなかで、屋外コンサートなど新しいプログラムも生まれました。

『オープンシアター2021』

音楽・美術でめぐる

世界の旅

プログラムの目玉はバリトン歌手の宮本益光さんが構成を手がけ、自身もソリストとして登場する『音楽でめぐる世界の旅 ガラコンサート』。オーケストラの名曲やオペラ・アリア、バレエの名場面を通して様々な国の音楽を紹介するプログラムです。管弦楽の演奏は神奈川県民ホールハーモニ管弦楽団。思いのほか子ども

2011年にスタートし、今年度で10周年を迎えたオープンシアター。劇場のなかをいろいろなかたちで見ていただこうと、施設内のあらゆる場所を使い、子ども大人も楽しめるプログラムを展開する企画です。新型コロナの影響で2020年度は中止となりましたが、今年度はその考え方やノウハウを継承しつつ、やり方を模索しながら実施しました。

そのほか『音楽のおくりものオルガンとカウンターテナーのハーモニー』、彫刻家の對木裕里さんによる『手や、目や、アタマが旅する展覧会』『手のたびーではいつておいで』、0歳からの『ミニミニ

また、公演が始まる前の時間帯に開催された「ステージ見学会」では、舞台から客席を眺めてみる方が続々。「ふだんと違う景色を見る」ことが魅力の一つになったように、まだまだ掘り起こせるコンテンツが劇場にはたくさんあるかもしれません。

来年度のオープンシアターは夏頃開催。展示では、障がいの垣根を越えて、多様なアーティストの創作活動をサポートする予定です。

主催公演では基本的に託児サービスを提供しており、さらにオープンシアターでは舞台上での手話通訳や、英語・韓国語・中国語の通訳による問い合わせ対応にも取り組んでいます。どうやって伝えるべき人に情報を伝えるのかということが今後の大きな課題です。

①コロナの影響で初めて企画した屋外無料コンサート「ミニミニコンサート」 ②『音楽のおくりものオルガンとカウンターテナーのハーモニー』終演後には舞台上がりバイブオルガン見学を実施 ③『音楽でめぐる世界の旅ガラコンサート』には東京シティ・バレエ団の佐合萌香さんと吉留諒さんが出演 ④『オープンシアター2021』大ホールロビー



写真：青柳 聡



写真：岩田 えり



写真：青柳 聡



写真：岩田 えり

『オープンシアター2021』 音楽・美術でめぐる世界の旅

日程 2021年5月30日

会場 神奈川県民ホール全館

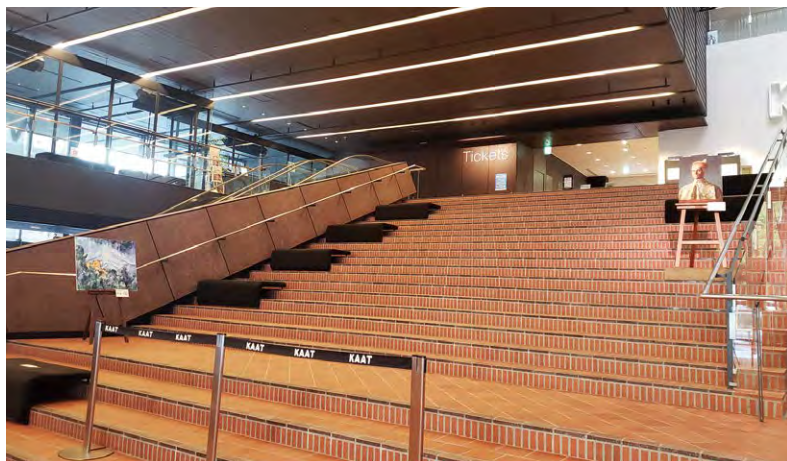
主催 神奈川県民ホール

「KAAT フレンドシップ プログラム」

様々な企画で地域に
「劇場をひらく」ことを
試みてきたKAAT。今
年度は「KAATフレンド

KAAT CASE STUDY 3 神奈川芸術劇場

シッププログラム」と銘打った枠組みで、朗読と絵画を組み合わせた
展示やアニメーション上映、バックステージツアーを行いました。



KAATフレンドシッププログラム朗読『風の琴』展示風景。左《サント・ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》ポール・セザンヌ、
《レオナルド・ロレダーノの肖像》ジョヴァンニ・ベルリニ。右《雪の狩人》ピーター・ブリューゲル。



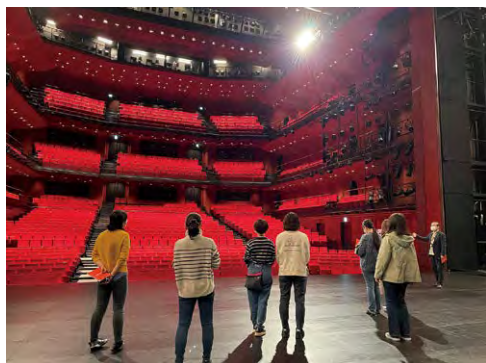
公演のある日は、それを心待ちにする
人や鑑賞直後の興奮で胸いっぱいになる人
が集うKAATのアトリウム。外からも見
渡すことのできるこの広い空間を主な会
場として、公演に来るお客様だけでなく
もっと多くの人に劇場をひらきたい、よ
り地域に愛される劇場になりたい、そん
な思いで企画・開催しているのが「KA
ATフレンドシッププログラム」です。

KAATでは以前から、前芸術監督の
白井晃氏がゆかりのある音楽家をゲスト
に迎えてトークや
演奏をお届けする
「SHIRAZ CAFE」
や、現代美術家と
のコラボレーショ
ンをアトリウムで
行ってきました。
新芸術監督の長塚
圭史就任（202
1年4月）以降は、
県民参加公演『虹
む街』のガラス越
しの稽古場公開や
月に一度のバック
ステージツアー（1
日2回）など、さ
らに柔軟にKAAT
のいろいろな場
所や機能の活用
に取り組んでいます。

米軍基地を一般開放する「フレンド
シップデー」からヒントをもらったプロ
グラムのネーミングを正式に冠した第一
弾企画は朗読『風の琴』（11月24日〜12月
6日）。アトリウムの各所に展示された4
枚の絵画をふらりと自由に鑑賞しながら
楽しめる朗読劇を実施しました。

朗読作品は、辻邦生著『風の琴』二十
四の絵の物語（1992年）のなかの
4篇。絵のそばにあるQRコードをスマ
ホで読み込むと、それぞれの作品からイ
ンスピレーションを受けて紡がれた物語
の世界に二人の俳優がいざなってくれる
ます。まさに劇場の奥で行われている公演
の魅力を想像させるようなプログラムで
す。朗読の字幕動画や、指先で絵画の輪
郭がたどれるよう凹凸がついた「触る絵」、
点字パンフレットなどの鑑賞サポートは、
今後もモニターからの意見を受けて改善
しながら、このプログラムの枠で特に重
点的に実施していきます。

12月17日、18日には、第二弾企画とし
てバンコク出身のマンガ家ウィット・
ポンニミットによるタイ語アニメーショ
ン作品『hesheit』を上映。2月1〜16日
には横浜中華街と連動し、「KAATカナ
ガワ・ツアー・プロジェクト」第一弾公
演『冒険者たち〜JOURNEY TO THE WEST
〜』に合わせて、西遊記をモチーフにし
た春節オブジェランタンを展示します。



10月から月に一度、1日2回実施しているバックステージツアー

「KAATフレンドシッププログラム」

- ・朗読『風の琴』：2021年11月24日〜12月6日
- ・みんなのKAAT バックステージツアー：2021年10月以降毎月1回実施中
- ・タイ語アニメーション『hesheit』：2021年12月17日、18日
※[鑑賞サポート]アクセシビリティ：タイ語音声+手話動画+バリアフリー日本語字幕

会場 KAAT 神奈川芸術劇場アトリウムほか

主催 KAAT 神奈川芸術劇場、(公財)神奈川芸術文化財団(社会連携ポータル課)

共生共創事業



「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」【TRACE】



綾瀬シニア劇団「Hale(はれ)」【道成寺〜サワリタイ サワレナイ〜】



小田原シニア劇団「チリアクオールディーズ」連続短編集「明日にしよう」



「電撃障がい者創作創造プロジェクト」【THE KENTY DONUTS MV】



「世界の歌とあそぼう!」韓国・朝鮮のあそび歌「チンドアリラン」



横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」【こんな11月3日観たことない!】



リーディングシネマ「ちいさなちいさな王様」【出演：藤野涼子／さえ(OriHimeパイロット)】

共生共創通信・動画一覧



<https://kyosei-kyoso.jp/workshopmov/>

新型コロナ感染拡大の状況下では、分身ロボットのOriHimeが登場するリーディングシネマ『ちいさなちいさな王様』、世界各地のあそび歌をアレンジして紹介する「世界の歌とあそぼう!」、そしてシニア劇団の作品などを2020年度に動画で配信。今後も動画が次々と公開されます。お楽しみに!

様々な活動のなかでも中心となっているのが「かながわシニア創作創造プロジェクト」。現在はオンラインでダンスサー・安藤洋子さんが毎月開催するダンスワークショップ「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」や、シニア劇団の「よっしゃ!!」(横須賀)、「Hale(はれ)」(綾瀬)、「チリアクオールディーズ」(小田原)などの企画を、県内各地で展開しています。

2016年、多くの犠牲者を出した津久井やまゆり園事件。このような事件が二度と繰り返されないよう、ともに生きる社会の実現を目指し、同年に神奈川県・県議会は「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。共生共創事業は、この「ともに生きる社会かながわ」の実現に向け、文化芸術の分野における「ともに生きる」ともに創る」を目標に、年齢や障がいの有無にかかわらずすべての人が参加できる舞台芸術の事業として神奈川県が2018年から取り組んでいます。



神奈川県音楽堂
写真：畑 亮

住所：神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-2



神奈川県立図書館

住所：神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-2



横浜能楽堂

住所：神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘27-2



神奈川県立青少年センター

住所：神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-1



横浜市民ギャラリー

写真：上杉 明

住所：神奈川県横浜市西区宮崎町26-1

みなとみらい地区を一望する横浜・紅葉ヶ丘には、神奈川県立音楽堂（Music Hall）、神奈川県立青少年センター（Youth Center）、神奈川県立図書館（Library）、横浜市民ギャラリー（Art Gallery）、横浜能楽堂（Noh Theater）があります。5館の公共文

化施設が連携して同エリアの魅力を発信していく活動が「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」。「まいらん」は、それぞれの頭文字「MY L A N」をひらがなで表したものです。

音楽堂、図書館、青少年センター

の3館は、日本の戦後モダニズム建築を代表する建築家・前川國男の傑作として知られています。2021年8月には、図書館と音楽堂が新たに神奈川県指定重要文化財に指定されました。また、1875年に建てられたものを復元した能楽堂の本舞

台は、関東地方現存最古の能舞台。こちらは横浜市の文化財に指定されています。

現在は各館や周辺施設で「横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぽマップ」を配布中。紅葉ヶ丘から歩けるアート・文学・舞台芸術スポットや、富士山

がきれいに見えるフォトスポット、音楽・歴史を感じるスポットを紹介しています。周辺には伊勢山皇大神宮、少し足を延ばせば野毛山動物園もある自然豊かなエリア。ぜひマップを片手に、おさんぽを楽しんでみてください。



横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぽマップ

対談

パラリンピック式典から 考える共生社会



森山開次と大前光市が踊った「Our Glorious Future ～KANAGAWA 2021～」

聞き手・文：河野桃子 対談写真：加藤 甫

東京2020パラリンピック競技大会開会式では、

障がいのある人もない人も含め

約2千人のパフォーマー・スタッフが

共にパフォーマンスをつくり上げ、

話題を呼びました。

認定NPO法人
スローレーベル理事長

栗栖良依

ダンサー・振付家

森山開次

——お二人の出会いはいは？

栗栖良依（以下、栗栖） 2017年の

「SLOW MOVEMENT」(※1)です。

2月のパフォーマンスに向けて（森山）開次さんに演出・振付をお願い

したことは、当時はまだ駆け出し

だった私たちにとって大きなチャレ

ンジでした。自分たちで基礎となる

チームをつくったところに、作品と

してレベルを上げるためにアーティ

ストに関わってもらおうというやり方

を試す初めての挑戦でもありました。

森山開次（以下、森山） その時は僕も、

障がいのある方の振付を本格的に

やったことがありませんでした。で

も栗栖さんは「自由に思いきりやつ

てください」というスタンスでした

し、一緒に創作活動をする「アカン

パニスト」(※2)と呼ばれる人たち

によるサポートが手厚かった。「今日

はこんな方々が稽古に来るから、ど

こで休憩を入れ、何の稽古を先に

やって……」という準備をすべて組

んでくださる。おかげでいつもの演

出と変わらず一人ひとりと向き合え

ました。

栗栖 アーティストにはなるべく普

段のお仕事をしてもらいたい。その

ためにも障がいのある方ならではの

特性にどのように対応するかは私た

ちが担いました。2月のパフォーマ

ンスでは約20人、11月には約100

人の多種多様な障がいがあるメン

バーで創作しましたが、やっぱり大

きな規模だと一人のアーティストが

すべてをつくることはできません。

育成に力を入れてきた「アカンパニ

スト」や「アクセスコーディネー

ター」(※3)がどう動けば誰もがベ



森山開次 もりやま・かいじ

神奈川県出身。2005年ソロダンス「KATANA」でニューヨーク・タイムズ紙に「驚異のダンサー」と評され、2007年ヴェネチア・ビエンナーレ招聘。2013年芸術選奨新人賞、文化庁文化交流使。2021年東京2020パラリンピック開会式演出・チーフ振付。

ストを尽くせるかというインフラづくりが必要で、失敗を重ねてノウハウを築き上げてきました。例えば、開次さんが目指しているところまで出演者の力を引き上げるには、なるべく障がいについての情報は伝えない。伝えてしまうと、開次さん自身がブレイキをかけてしまうから。そのかわり、開次さんのやりたいこととアクセスコーディネーターのすり合わせが重要でした。

森山 僕が「こんなことも、あんなこともできる」と上を目指していくと、アクセスコーディネーターが「今のジャンプはちょっと……」とか「休憩入れてください」と気づいてくれる。だから思いきりやれるんです。

栗栖 私としては、2014年から準備をして2016年のリオデジャネイロのパラリンピックのステージアドバイザーを担当した経験を踏まえて、2017年にやっと「このやり

方でなら東京パラリンピックができる」と思えるところまでできましたね。
森山 そうですね。この2017年が僕と栗栖さんによるパラリンピックのスタートでした。

一人ひとりが「個性」であること

——パラリンピック開会式だからそここだわったことは？

栗栖 オーディションですね。誰にでも平等に挑戦の機会を与えたかった。また、個性と同じくらい社会性もみて選考しました。キャスト約700人、スタッフ約1200人もいるので、コミュニケーションは必須。でもいろんな疾患や障がいを抱えていて、ちゃんとリハースルや本番に來られない障がい者もいるんです。そうしなければならぬに放り込まれた経験がない人も多い。だから



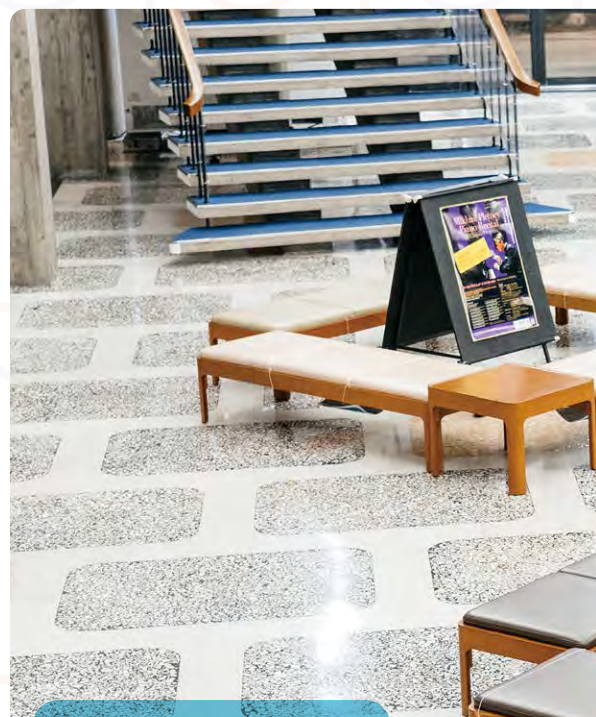
栗栖良依 くりす・よしえ

アートの力で異文化の人や企業をつなぐプロジェクトを多く手がける。2015年より障害のある人の舞台芸術におけるアクセシビリティを改善する活動を展開。ヨコハマ・パトラリエンナーレ総合ディレクター。東京2020パラリンピック開会式ステージアドバイザー。

ら開会式では、舞台に立つだけでなく、社会性を身につけたり、終了後にリーダーとして地域のインクルージョンに貢献してくれたら、と願っていました。

森山 その結果、いろんなリーダーが生まれましたね。障がいのある方だけでなく、健常者のダンサーにも芽吹きがありました。ダンサーは日々身体を通して、年齢や国籍など様々な条件の人が存在していることは実感しているはずですが、特定の「場」のなかで多様性に向き合う経験はあまりない。

栗栖 参加したプロダンサーの9割以上が障がいのある人と踊った経験のない人たちでしたね。あるダンサーは「自分はサポートする側かと思っていたら、みんながとても個性的で『このままでは負ける!』と本



気を出した」と言っていました。

森山 目の前にいろんな個性がハッキリと存在していたから「俺って何ぞや?」と闘志を燃やしたと思う。僕もそうでした。

栗栖 私たちも、その個人が一番輝く見せ方にこだわりましたね。やっぱり「多様性のために車椅子の人を出演させよう」みたいな考えは本当の多様性ではないですから。だから開会式を見た人は、障がい者が約160人もいたことに気づかなかったんじゃないかな。障がいではなく「この人、面白いね」と一人ひとりの個性を楽しめたと思います。今後は、開会式を見て「自分もやってみたい」と思ってくれた人たちの未来につながるようなレガシーとなる企画をつくりたいです。

森山 そのための作戦会議を今、栗

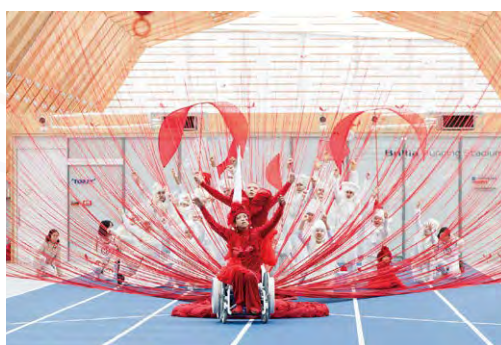
障がいの有無にかかわらず
協働する場づくりにどのように取り組み、
成功させたのか。
ステージアドバイザーを務めた
栗栖良依さんと、
演出・チーフ振付の森山開次さん
に伺いました。

栖さんと進めています。

劇場が 共生の場となるために

——共生社会のために劇場やホールができることは何でしょうか。

森山 この神奈川には素敵な劇場があり、先日は神奈川県立音楽堂のロビーや階段などで義足のダンサー大前光市さんと二人で踊らせてもらいました(P20に詳細)。またKAA T主催公演の『不思議の国のアリス』の演出で、KAA Tほか全国16もの会場でツアーを組んでいただいた時は、KAA Tの横のつながりがあって実現したのだと思いました。地域の特徴がある施設同士のつながりも生かしながら、単なる観光スポットでなく、様々な人が集まれる場所に



2017年2月に開催された「SLOW MOVEMENT」 写真：川瀬一絵

なっていくという期待があります。

栗栖 KAA Tには全国から人が集うグローバルな強さもありますよね。そのような劇場が先進的な共生テーマのプロジェクトを実施することで、全国に波及していくことも期待しています。

- ※1 2015年に総合演出・栗栖良依のもと活動をスタートした、様々な分野のアーティストと、年齢、性別、国籍、障がいの有無を超えた多様な市民が協働して創作する市民参加型パフォーマンスプロジェクト。2017年は、2月と11月に公演を行った。
- ※2 ダンサーや役者などが多く、年齢、性別、アート経験の有無を乗り越えて関係を築き、創作の可能性と一緒に広げる「伴奏者」として活動に取り組む。物理的・心理的な困難を、創作者という同じ立場で寄り添いながら乗り越える方法を一緒に探り、隠れた創造性を見つけ、引き出し合う。
- ※3 人や場所によって必要な情報やサポートを行えるよう、個別に状況をよく聞き、参加までの不安やストレスを最小限にする。また、現場での体調や精神状態をチェックし、必要に応じてケアを行う。看護師資格をもつメンバーなどにより、ケアだけでなく、自分の判断で動けるようにサポートしていく。

東京藝術大学大学院修了制作としてつくられた

映画『PASSION』には、横浜の街並みが映し出されています。

映像研究科への入学から神奈川県との縁が深くなったと語る濱口竜介監督に、

映画館という場の可能性や共生社会について伺いました。

——濱口監督は深田晃司監督と共に発起人となり、ミニシアター・エイド基金（※1）を立ち上げ、約3万人からの支援を集めました。プロジェクトを通して再認識した「映画館という場の可能性」はありましたか？

映画館は多くの人にとって、「人生の軸」となるような深い体験を得られる場であることを可視化したプロジェクトでした。特にミニシアターでは、様々な年代、テーマを捉え、「わかりやすさ」とは対照にある多様な映画に触れることができます。「わからなさ」を受け入れるという体験は、共生社会の醸成につながっているのではないのでしょうか。また、映画館は「自分とは違う他人」の「違う感じ方」を目の当たりにする場でもあります。「他者と違うままにいられる」という意味での可能性もあるように思います。

——『ドライブ・マイ・カー』（※2）では、手話も含めた異なる言語でセリフを言い合う多言語演劇（右下写真）が取り入れられていたことが印象的でした。

多言語演劇では、役者が相手の言葉を十分に理解できないため、高い集中力で接していないと演技ができない状況が生まれます。俳優には、対話における“身体反応”を大切にされた演技をしてもらいたかったので、この方法を取り入れま

PROFILE

2021年『ドライブ・マイ・カー』で第74回カンヌ国際映画祭コンペティション部門脚本賞ほか3賞を受賞。同年に第71回ベルリン国際映画祭銀熊賞（審査員グランプリ）を受賞した『偶然と想像』はBunkamura ル・シネマほかで12月17日より全国公開。



映画監督／脚本家

濱口竜介 Ryusuke Hamaguchi

「わからなさ」を受け入れるという体験は、共生社会の醸成につながっている——

した。手話は「嘘をついたらバレてしまふ」と感じるほど、相手をよく見る必要があるコミュニケーションです。より率直な表現が含まれていると思い、言語の一つとして扱いました。

——一方で、多言語の人と共に制作する過程には、多くの困難が伴ったのではないかと想像するのですが。

異なる言語のコミュニケーションを成立させるのは、やはり大変なことです。本作でも、一つひとつの言語を通訳する膨大なプロセスがありました。「多様な人が共生する社会」を実現するためには困難や痛みも伴うし、実現しようとする側の覚悟も必要です。その共通認識をもつために議論を重ねていくことが、今求められているのではないのでしょうか。



©2021『ドライブ・マイ・カー』製作委員会

- ※1 新型コロナウイルスの拡大、そしてそれに伴う自粛要請によって経営のひっ迫している小規模映画館を支援することを最大の目的としたプロジェクト。
- ※2 村上春樹の同名短編小説を、濱口竜介と大江崇允が共同で脚本を執筆し映画化。第74回カンヌ国際映画祭 脚本賞ほか、全4冠を獲得した。2022年1月現在、全国で公開中。

2021年7月から9月に開催された

「パビリオン・トウキョウ2021」※1へ企画段階から関わり、

出展者として『ストリート ガーデン シアター』を発表した建築家の藤原徹平さんに、

“劇場”と広場の関わりについて語っていただきました。

——『ストリート ガーデン シアター』は、
どのように構想していったのでしょうか。
現代の都市って表面的にはきれいになっただけで、いろいろ隠されていますよね。かつては駅前も商店街も様々な人の訪れる雑多さのある「広場」で、そんな場所を改めてつくれないかと考えました。そこで、歌舞伎や能のような芸能が演じられることで特別な時間がつくられてきた「道」をテーマにしました。ストリートは劇場の起源であり、またインフォーマルな「広場」です。オリンピックの期間、ここでパフォーマンスなどが自由に発表されたら面白いと思いました。

——新型コロナの影響で企画が延期され、
藤原さんのパビリオンは「劇場のような道」から「植物と人のための劇場」へと変化しましたね。
都市から広場のような雑多さが消えている理由の一つは、人々があまりに速く動きすぎているからかもしれません。以前のように動き回れず家族と近所で過ごすなかで、外から何か持ってくるのではなく、自分のまわりを耕していくような時代が来ると感じました。そこで、土地に植物を生やし、メンテナンスし続けることで広場をつくることをテーマに変えました。毎日みんなで水やりをして、植物のことを考える。普段の仕事や打ち合

藤原 徹平 Teppei Fujiwara

建築家 / フジワラ テッペイアーキテクツラボ 主宰

文化の多様さを
下支えするのが「広場」——



PROFILE

1975年横浜生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。
2001年～2012年隈研吾建築都市設計事務所。2012年～横浜国立大学大学院Y-GSA准教授。
一般社団法人ドリフターズインターナショナル理事。
建築設計のみならずアートプロジェクトにも多数関わる。



『ストリート ガーデン シアター』会期中の様子 写真：Yurika Kono

※1 9名の建築家やアーティストが新国立競技場を中心とする複数の場所に建物やオブジェを設置し、自由で新しい都市のランドスケープを提案した。

※2 個人やグループにより自由な手法で自主制作される冊子。本企画では路上園芸の歴史、地域住民の聞き取りや写真等をまとめた。

——「劇場」としてつくってみて、まちの反応は？
きれいな都市公園ではなく雑多な裏庭のようにつくると、パツと見てすぐ帰る人もいれば、ずっとくつろぐ人もいます。終了後に育てた植物を配布したのですが、毎日見ていましたと声をかけてくれる人もいました。劇場も、その土地に根を生やすという感覚が大切で、公演がなくても動いていることを市民に見せていく必要があります。何となしくつろいでいたら自然に文化に触れられてしまう「広場」が文化の多様さを下支えるのではないのでしょうか。

わせもそこでして、リサーチをまとめたZINE（※2）をつくったり、様々な活動を見せることにしたんです。

聞き手・文：山川 陸 写真：菅原康太

青木 彬【あおき・あきら】1989年生まれ。東京都出身。アートを「よりよく生きるための術」と捉え、アーティストや企業、自治体と協同して様々なアートプロジェクトを企画している。主な活動に「黄金町パザール2017」アシスタントキュレーター、『素が出るワークショップ』（学芸出版）編著。

それぞれの真実に寄り添うこと

青木 彬（インディペンデント・キュレーター）



オル太『超衆芸術スタンドプレー 夜明けから夜明けまで』（2020年、北條工務店となり、主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人藝と）写真：縣 健司

最近「事実」と「真実」の違いについて考えるきっかけとなる作品がありました。

一つは私がディレクターを務める「ファンタジーファンタジー！」生き方がかたちになったまち」でのことです。2020年にアーティスト集団のオル太を招聘し、墨田区の歴史にまつわるリサーチをもとに映像インスタレーションを発表しました。題材となったのは、関東大震災時の朝鮮人虐殺や隅田川流域での皮革産業など。さらにアーティストたちは街中の飲み屋で出会った地元住民の生々しい話まで、様々な「語り」を紡いでいきました。

また、2019年にキュレーションした『逡巡のための風景』において八幡亜樹が発表した『△』は、レビィ小体型認知症の女性が見て

しまう幻視の子どもについての語りから始まるものでした。幻視の子どもに握るおにぎりから、物語は児童養護施設、農家へと転々と流転していきます。

これらの作品で描かれていることは、厳密な調査に基づく歴史でも、客観的に整合性が取れる経験でもありません。しかし、客観的な事実でなくとも、当事者にとつての代えがたい真実があるのではないのでしょうか。人は客観的な事実のみの世界を生きられるわけではありません。歴史の中の個々人の葛藤にも、認知症当事者が見ている景色にも、自分という存在を肯定するために必要な真実が存在するのかもしれない。しかし、そんな真実も時として独りよがりになったり、他者との間にズレが生じるものです。そうした一人ひとりの真実に耳を傾ける寛容性を生む技術が、アートにはあるのではないのでしょうか。

事実だけを頼りにしていると、目の前の人にとつての真実にまで想像を膨らますことができなくなってしまう。それぞれの真実と辛抱強く向き合い対話続けることが、これからの共生社会に求められるのではないのでしょうか。

内野 儀【うちの・ただし】1957年京都生まれ。東京大学名誉教授。学習院女子大学教授。専門は表象文化論。著書に『メロドラマの逆襲』（1996）、『メロドラマからパフォーマンスへ』（2001）、『Crucible Bodies』（2009）。『J演劇』の場所』（2016）など。（公財）神奈川芸術文化財団理事。

「出羽守」の話に（も）耳を傾けるために——コロナ禍と公共劇場

内野 儀（演劇批評）

「出羽守」という言葉があります。「……では」と、何かというと「では」ばかりを上から目線で連発する人。本稿のテーマである劇場についてなら、「フランスでは……」「ドイツでは……」と、西洋の劇場について物知り顔でいろいろ無理難題を提案すると思われる人のことです。

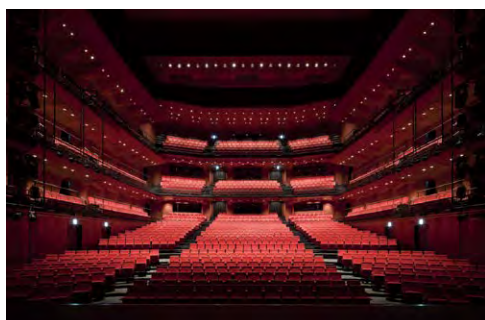
「出羽守」がいる一方で、「フランス」や「ドイツ」なんて関係ないとして強く反発する人がいます。「アンチ出羽守」です。アンチなので「出羽守」の提案にまったく耳を傾けず、観客とか市場とかを信じてと称して、利根的にいろいろやります。なので、「アンチ出羽守」は、たいてい、現状肯定になりま

す。

日本は明治以降西洋化したことになっているので、21世紀にもなれば、「……では」とか言われなくてもよさそうなものですが、「劇場」に、これまた危うい概念の極地である「公共」がひつついて「公共劇場」になったので、「出羽守」と「アンチ出羽守」の戦場＝論争の場と化すはずでした。しかし、少数の例外を除いてそうはならず、行政と市場＝資本の顔色をうかがう「アンチ出羽守」によって、独

自の発展を遂げることになりました。芸術とエンタメの境界がなくなり、公共劇場でやっている演目と商業劇場でやっている演目に、何の違いもなくなったのです。ついでに言えば、入場料の違いも、目立つほどではなくなりました。

そこにいわゆるコロナ禍が来しました。そのなかで「公共劇場」は、これまでの商業化を加速させるだけなのか、あるいは、今こそ立ち止まって「公共」や「劇場」を再定義しようとするのか。もし後者であるなら、「出羽守」にも出番が回ってくるかもしれません。いや、現状肯定を望まないのなら、「出羽守」の話に（も）耳を傾けるべきだ、となるはずなのです。



KAAT 神奈川芸術劇場 ホール



REGULAR FEATURE

リニューアルをした本誌では、毎号、以下のコンテンツをお届けします。

アートシーンプレイバック

今号では、「キッズプログラム」や「ダンスプログラム」の複数のレビューと総論により、2021年度に県内を中心に開催されたアートシーンをふりかえります。



C × (シー・バイ) シリーズ

2021年の春に始まったクラシック音楽の新シリーズ「C × (シー・バイ)」から、「C × C (シー・バイ・シー) 作曲家が作曲家を訪ねる旅」を紹介します。



公演の舞台裏

普段は縁の下の力持ちとして様々なかたちで公演を支え、「舞台裏」で活躍するスタッフの技術やその仕事について取り上げます。
今回は[衣装デザイナー編]をお届けします。

アートシーン ▶ プレイバック

2021年度のキッズプログラムをふりかえる

子どもたちに、芸術や美術を身近に、楽しく感じてもらいたいという願いで、各地の劇場・ホールや美術館、団体が子どものための「キッズプログラム」を開催しています。神奈川県下、そして全国の取り組みを紹介します。

文：浦島茂世（フリーライター）



写真：大洞博靖



写真：青柳 聡

子どもと大人の音楽堂〈子ども編〉 『みんなー！ たのしい音楽始めるよ、 あつまれー！』

音楽家の大友良英が率いるスペシャルビッグバンドによるコンサート。観客は音の出るものを持参し、ビッグバンドの演奏に合わせて音を鳴らしたり、指揮者を体験したり、時には盆踊りを踊ったりと体全体で音楽を楽しみました。演奏中も出入り自由、観客席を真っ暗にはせず、コンサートが初めての子どもたちも快適に過ごせるような環境づくりも行いました。（P7にインタビューあり）

会場 | 神奈川県立音楽堂
日程 | 2021年7月30日
主催 | 神奈川県立音楽堂

KAAT キッズ・プログラム2021 『ククノチ テクテク マナツノ ボウケン』

振付家の北村明子と現代美術家の大小島真木による新作ダンス公演。夏休み、とある公園で木の神「ククノチ」に出会った子どもたちが、冒険のなかで自然や祖先との関わりを学んでいく物語。開演前には「お面づくり体験」や、「5分間ダンスレッスン」を実施。公演中につくったお面をかぶって、観客と演者が一緒に踊る時間は非常に盛り上がりました。

会場 | KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ
日程 | 2021年7月12日～19日
主催 | KAAT 神奈川芸術劇場

県民ホールでは、あらゆる人にホールを身近に感じてもらうイベント『オープンシアター2021』を5月に開催。コンサートや展覧会、ワークショップをたっぷり楽しめる一日になりました。また、子どもも楽しめるオペラ『ヘンゼルとグレーテル』を、海老名と横須賀で上演しています。KAATは、ダンス公演『ククノチ テクテク マナツノ ボウケン』を開催。クライマックスでは観客もダンスに参加し、表現の楽しさに触れることができました。音楽堂では、『みんなー！ たのしい音楽始めるよ、あつまれー！』を開催、観

神奈川芸術文化財団の 取り組み

2020年初頭から続く新型コロナウイルスの流行とその対策により、全国各地の文化施設は、多くの事業が中止や延期、規模縮小を余儀なくされました。例年は夏休み時期に開催されるキッズプログラムも同様です。けれども、マスクや消毒、換気など感染対策を十分に施し、好評のうちに終了したイベントも少なくありません。マナーを守りながらも、めいっばい楽しむ子どもたちの姿が各会場で見られました。

困難のなか開催された キッズプログラム



海老名公演より 写真:岩田えり

みんなでたのしむオペラ 『ヘンゼルとグレーテル』

ドイツのメルヘン・オペラ『ヘンゼルとグレーテル』の魅力を凝縮した60分のスペシャル版。本作品は2018年に神奈川県民ホールで生まれ、一昨年に引き続き、県内を巡回公演しました。やさしいママと怖い魔女の一人二役を演じるのはソプラニスタ(男性ソプラノ歌手)として知られる岡本知高。彼を始め4人の歌手の迫力ある歌声と、軽やかなピアノ演奏、そして日本語オリジナル台本によって、はじめてオペラ鑑賞をする方でも非常にわかりやすい内容となりました。

会場 | 海老名市文化会館、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット
日程 | 2021年7月17日(海老名)、7月24日(横須賀)
主催 | 神奈川県民ホール

第21回カナガワビエンナーレ 国際児童画展

1981年から隔年で開催されている、児童画の展覧会です。21回目となる今回は世界58の国と地域及び神奈川県内と全国の外国人学校から、合計8,062点の応募があり、520点の作品が入賞しました。ちなみに、ビエンナーレとはイタリア語で2年に1度行われる美術展覧会を意味します。入賞者の作品は、展覧会だけでなくウェブサイトからも閲覧できるようにになっており、ビエンナーレ応募者も現地にいながら閲覧することができます。

会場 | 神奈川県内11会場を巡回中
日程 | 2021年9月~2022年3月
主催 | 神奈川県、神奈川県立地球市民かながわプラザ



あーすぶらぎでの会場風景

普及公演「横浜狂言堂」 〈こども狂言堂〉

横浜能楽堂で夏休みの時期に毎年開催されている子どものための狂言公演です。演目は、二人の大名が、鶏や犬、起き上がり小法師のものまねをさせられる『二人大名』と柿を盗んだ山伏が動物のものまねで何とかごまかそうとする『柿山伏』。2曲を鑑賞後、人間国宝として知られる狂言方の山本東次郎が狂言の面白さをわかりやすく解説しました。

会場 | 横浜能楽堂
日程 | 2021年8月1日
主催 | 横浜能楽堂(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)



狂言「二人大名」(大蔵流) 写真:尾形美砂子

客が演奏に参加することで会場全体が一体となりました。

神奈川県下注目の取り組み

キッズプログラムは神奈川県下で積極的に行われています。2021年8月から10月まで開催されていた日本最大級のダンスフェスティバル「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」では、横浜市の小中学校などにプロのアーティストが出向く「スクール・オブ・ダンス」を開講。たくさん子どもたちがプロの表現に触れ、自らも体を動かしました。平塚市美術館(平塚市)では乳幼児向けの屋外ワークショップ「キッズ

アート・ピクニック」を年間を通して開催。子どもたちは芝生の上でのびのびとアートを体験しています。また、現在は大規模改修のため長期休館中の横浜美術館(横浜市)は、学芸員らが横浜市内の文化施設などを訪れ、レクチャーや体験講座を行っています。

全国各地に見られる、 枠組みを超えた取り組み

全国では、従来の枠組みにとらわれず、多様な価値観に触れる試みも行われています。11月に正式開館した八戸市美術館(青森県八戸市)では、小中高生が同じ場所、同じテーマ・素材で作品をつくり、鑑賞する「小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト」など、学校や年齢の壁を越えた芸術活動の試みが開館前から継続して行われています。ロームシアター京都(京都府京都市)の夏休みイベント「プレイ！シアター『Summer 2021』」では、プロ俳優の芝居に対して子どもたちが「演出」を行うワークショップや、ドラマグレイションによる絵本の読み聞かせイベントなどが行われました。キッズプログラムは年を追うことに進化しています。全国各地で開催されるキッズプログラムの動きと発展がとても楽しみです。

アートシーン ▶ プレイバック

2021年度のダンスプログラムをふりかえる

神奈川における2021年度上半期（4～9月頃）のダンス公演をふりかえてみましょう。
コロナ禍と緊急事態宣言によって大きな制限を受けつつも、アーティストと関係者の努力と創意でいくつもの公演が実現しました。

文：乗越たかお（作家・ヤサぐれ舞踊評論家）



『A JOURNEY ～記憶の中の記憶へ』 写真：瀬戸秀美



「Our Glorious Future ～ KANAGAWA 2021 ～」

「共生社会の実現に向けて」をテーマに、神奈川県にゆかりのある様々な分野のアーティストが参加し、作品は世界へ配信されました。ダンス部門ディレクションはダンサー・振付家の森山開次。ひびのこづえ（衣装）、川瀬浩介（作曲家・美術家）との協働で、骨や内臓をモチーフにコミカルな表現で国内外で上演を重ねる「LIVE BONE」シリーズに、義足のダンサー・大前光市を招き、前川國男の代表建築・神奈川県立音楽堂で撮影した新作を含む6本の映像が公開されています。

会場 | オンライン

日程 | 2021年8月から順次公開（現在も<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/portal.html>にて公開中）

主催 | 神奈川県、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」

KAAT 神奈川芸術劇場では金森稔率いる Noism Company Niigata とDDD ディレクター・小林十市……モリス・ベジャールの「兄弟弟子」ともいうべき二人が会った『A JOURNEY ～記憶の中の記憶へ』。そして『エリア50代』では、近藤良平と小林十市が日替わりでゲストを招き、今なお第一線で踊り続ける50代のダンサーたちのリアルを描きました。

会場 | 横浜市内全域

日程 | 2021年8月28日～10月17日（プレ期間＝5月1日～8月27日、ポスト期間＝10月18日～11月30日）

主催 | 横浜アーツフェスティバル実行委員会

神奈川におけるダンスの拠点といえば横浜赤レンガ倉庫1号館でしょう。ここで開催される「ヨコハマダンスコレクション」は1996年開始から日本のダンス界を支え、世界とつながってきました。例年2月開催でしたが、今年度から「Y P A M、横浜国際舞台芸術ミートینگ（旧TPAM）」とともに12月への移行が発表されました。他にも様々な自主企画のダンス公演を行っています。

KAAT 神奈川芸術劇場は、4月1日より新芸術監督に長塚圭史が就任しました。ダンス公演も豊富で、この上半期にも Dance Dance Dance @ Yokohama 2021（以下「DDO」）の『エリア50代』、Dance Base Yokohama（以下「DaBY」）のイスラエル・ガルバン公演のほか、北村明子演出振付のキッズ・プログラム2021『クノチテクテクマナツノボウケン』は広い世代に好評で、鬼才・岡田利規による新作能ながら『未練の幽霊と怪物』『挫波』『敦賀』では森山未来と石橋静河のダンスが話題になりました。

「DDD」は3年に一度開催される、我が国でも最大規模のダンスの祭典です。プロの舞台はもちろん市民参加の企画も充実。ストーリーや商業施設の広場など、まち全体が会場に

なります。『横浜ベイサイドバレエ』では象の鼻パークに特設舞台をつくりました。潮風の中で、遠くに豪華客船の汽笛を聞きながら『ギリシャの踊り』『海賊』よりパ・ド・トロフ』『ボレロ』を鑑賞する、格別な体験となりました。

今回のDDDは世界的に活躍するダンサー小林十市がディレクターに就任。小林の実の兄弟である落語家・柳家花緑の『おさよ（落語版ジゼル）』の語りと東京シティ・バレエ団の『ジゼル』の共演という画期的なプログラムも実現しました。他にも山本康介の構成・演出で新旧ダンスの珠玉のプログラムを揃えた『International Choreography × Japanese Dancers 〜舞踊の情熱〜』や、DDD初のグランド・バレエ公演として東京バレエ団『白鳥の湖』も行われました。

そして新しく「プロフェッショナルなダンス環境の整備とクリエイター育成に特化した事業を企画・運営するダンスハウス」として開場した「DaBY」も注目を集めました。アーティスティックディレクターの唐津絵理の下、ダンサーへの様々なクリエイション支援はもちろん、法律相談やセミナー、「ダンスのアクセシビリティを考えるラボ」視覚障害者と味わうダンス観賞篇」など、日

本のダンス環境そのものの改革にも取り組んでいます。

コロナ禍に対応するために、配信事業にも多くの挑戦がありました。

「Our Glorious Future ~KANAGAWA 2021~」（※1）は様々なジャンルのアーティストが映像作品を配信するプログラム。ダンス部門は森山開次のディレクションで進められました。横浜能楽堂では、館内を自由に見てまわる「バーチャル能楽堂」や「施設見学会」のほか、「バリアフリー能」公演動画も期間限定で公開しました。神奈川県60歳以上のシニアの皆さんと、ダンサーの安藤洋子が新たなダンス表現を創り出す「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」プロジェクトでは、成果発表として2本の映像作品を公開しました（2021年3月）。また『ダンス縁日2021スペシャルライブ 象の鼻ナイトミュージアム vol.1 兆し』では「観客は屋外」「演者は室内」と分け、コロナ禍を逆手に取る演出が生まれました。

日本のダンスを様々なかたちで支えてきた神奈川のダンス文化は、コロナ禍でもより強く観客にダンスを届けてきたのです。

※1 東京2020オリンピックパラリンピック競技大会公式文化プログラムとしてオンラインで開催。正式名称は『東京2020 NIPPON FESTA! vol.1 ONE - Our New Episode - Presented by Japan Airlines Our Glorious Future ~ KANAGAWA 2021 ~ カガヤク ミライガミエ ルカナガフ2021』。

横浜赤レンガ倉庫1号館

『great journey 5th』は、コンドルズの近藤良平とハナレグミの永積崇が、世間話をしながらゆるりとダンスと音楽の時間が過ぎていく好評シリーズ。「これぞソーシャル・ディスタンス・パフォーマンス!」と絶賛を浴びた月灯りの移動劇場『Peeping Garden/re:creation』は、観客が一人ずつ半個室の壁の覗き穴からパフォーマンスを見守る作品です。そして『表現者たち-LiBERATION』では世界的タップダンサーの熊谷和徳が日替わりゲストを迎えて熱演しました。

住所 | 神奈川県横浜市中区新港1-1-1



『great journey 5th』 写真:菅原康太

『WOLF』 写真:加藤 甫



神奈川県立青少年センター 紅葉坂ホール・スタジオ HIKARI

紅葉坂ホールはDDDの落語版ジゼル『おさよ』を上演。スタジオ HIKARI では、若手の挑戦的な作品上演が続いています。平原慎太郎率いる OrganWorks の『WOLF』は狼を通して生命の本質に迫る作品。中村蓉『ジゼル』は、バレエの古典『ジゼル』にソロで挑戦しました。自身も日本舞踊の名取である中川絢音率いる水中メガネ∞のコンテンポラリーダンスと、日本舞踊家の藤間涼太郎と花柳寿紗保美の協働『しき』も新しい可能性を示しました。

住所 | 神奈川県横浜市区紅葉ヶ丘9-1

『春の祭典』 写真:羽鳥直志



Dance Base Yokohama (DaBY)

革新的なフラメンコで評価の高いイスラエル・ガルバンを招聘し『春の祭典』をKAATと愛知県芸術劇場で公演。さらに横浜市役所アトリウムで『SOLO』を上演しました。

TRIAD DANCE PROJECT「ダンスの系譜学」は、『振付の原点』と『振付の継承 / 再構築』を併演することで、ダンスの系譜をリアルに探る企画。中村恩恵・酒井はな・安藤洋子がそれぞれ原点となった作品と新作を一挙に踊る横浜トライアウトを上演しました。

住所 | 神奈川県横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK&WHITE BRICK North 3階



写真:青柳 聡



C×C 作曲家が 作曲家を訪ねる旅

——作曲家・山本裕之が武満徹を訪ねて

聞き手・文:猪上杉子

写真:大野隆介



山本裕之

「やまと・ひろゆき」1967年生まれ。作曲家。作品は日本、ヨーロッパ、北米等を中心に演奏されている。演奏家や音楽団体などから委嘱を受けて楽曲を提供する一方で、コンサートの企画運営など様々な活動を展開している。武満徹作曲賞第1位(2002)、第13回芥川作曲賞(2003)、第51回神奈川文化賞未来賞(2002)などを受賞。愛知県立芸術大学教授。

武満徹(1930-1996)は どんな作曲家?

主に独学で作曲を学ぶ。『弦楽のためのレクイエム』(1957)がストラヴィンスキーに絶賛され、一躍世界に名が知れた。『ノヴェンバー・ステップス』(1967)も代表的作品の一つ。黒澤明、タルコフスキーなど映画との関わりも深い。

C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅 山本裕之×武満徹(没後25年)

会場 | 神奈川県民ホール 小ホール 日程 | 2021年11月6日

2021年春、神奈川県民ホールは、クラシック音楽の新シリーズ「C×C(シー・バイ)」をスタートしました。Composer、Classic、Contemporary——様々な「C」を掛け合わせる試みから、今回は、過去の偉大な作曲家(Composer)と、今を生きる気鋭の作曲家(Composer)が交錯する「C×C(シー・バイ・シー)作曲家が作曲家を訪ねる旅」を紹介します。

シリーズの第1回「山本裕之×武満徹」が開催されたのは2021年11月6日。現代の音楽シーンに欠かさない作曲家の一人、山本裕之さんの4曲と、没後25年の20世紀の日本を代表する作曲家・武満徹の4曲が交互に、若手を中心とした実力派の演奏家たちによって演奏されました。山本さんの1曲は神奈川県民ホールが委嘱した「横浜舞曲」の初演でした。「武満徹を訪ねた旅」はどのようなものだったのか、山本さんにお聞きしました。

「偉大すぎる武満と並べられると聞いたら、最初は自分との接点が見つけれらるだろうかと思いました。初期から中期の作品を選んだのは、今の私の年齢よりも若い武満のことを深く知れたことから。スコア(楽譜)を読むと、ふわりとした曖昧な音響を書く作曲家の印象が変わり、音に対して厳密な姿勢と、自分だけの音楽をつくろうとする強い意志が見えてきました。そうした武満に呼応して私が『横浜舞曲』を書くにあたっては、武満の使用したハーブの特殊調律を流用しました。フォーマットに共通性を持たせたことで、武満と私の違いが現れるだろうと期待して演奏家たちの反応も加味されて、とても面白い試みができたと思います。」

「C×C」の第2回「川上統×サン・サンス」は2022年1月8日に催され、川上さんの委嘱新作が、没後100年を迎えるサン・サンスの『動物の謝肉祭』と交差しました。今後、様々なかたちで展開される「C×Cシリーズ」で音楽の冒険が楽しみです。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員・協賛・協力・寄付 ご芳名

五十音順・敬称略(2021年12月1日現在)

賛助会員 法人賛助会員:株式会社アウトエンジニアリング / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 株式会社エス・シー・アライアンス / 株式会社NHKアート / 株式会社勝烈庵 / 一般財団法人神奈川県教育福祉振興会 / 公益財団法人神奈川県結核予防会 / 株式会社神奈川孔文社 / 株式会社神奈川保健事業社 / 神谷コーポレーション株式会社 / 川本工業株式会社 / かをり商事株式会社 / 株式会社共栄社 / 株式会社KSP / 株式会社合同通信 / 株式会社シグマコミュニケーションズ / 株式会社ジェイコム湘南 / 神奈川 / 株式会社清光社 / 月島機械株式会社 / 株式会社テレビ神奈川 / 東工株式会社 / 株式会社日建設計 / 日産自動車株式会社 / 日成工務株式会社 / 日生商工株式会社 / 日総ブレイン株式会社 / 日本発条株式会社 / 株式会社野毛印刷社 / パナソニックLSエンジニアリング株式会社 / 平安堂薬局 / 株式会社ホテル・ニューグランド / 一般社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社 / 三沢電機株式会社 / 株式会社MERECON / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商會 / 株式会社ユニコン / 株式会社横浜アーティスト / 横浜新都市センター株式会社 / 横浜信用金庫 / 弁護士法人横浜パートナー法律事務所 / 横浜ビルシステム株式会社 / 株式会社ワイイーシーソリューションズ(匿名:3社) 永年個人賛助会員:川村恒明 個人賛助会員:味田健一 / イシタエミ / 岡田博子 / 小川浩 / 黒瀬博晴 / 小山明枝 / 佐々木順子 / 鈴木真由美 / 高岡俊之 / 高野伊久男 / 中澤守正 / 橋本尚子 / 藤原靖也 / 三澤孝至 / 渡邊政彦(匿名:3名)

協賛・協力 能舞台協賛:ナイス株式会社 協力:神奈川トヨタ自動車株式会社 / 株式会社崎陽軒 / 三菱地所株式会社 個別協賛:アクセントアーツ 芸術部 / Accenture Art Salon / ユカ・ツルノ・ギャラリー(匿名:2名)

ご支援のお願い

神奈川芸術文化財団では、芸術を愛する個人の皆様、社会貢献活動にご関心のある企業の皆様にお力添えをいただくため、賛助会員制度を設け広くご支援をお願いしています。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

○賛助会員:1年を通じて事業全般にご支援をいただきます。

○個別協賛:特定の公演・事業にご支援をいただきます。

○インターネット小口寄付:1口3,000円からインターネットで気軽に寄付いただけます。

特典

○ご芳名を掲載します。○財団主催公演のなかから選定した公演にご招待いたします。

○神奈川芸術プレスを送ります。○税制上の優遇措置があります。

お問い合わせ・申し込み

公益財団法人神奈川芸術文化財団 経営企画課
https://www.kanagawa-arts.or.jp/support
電話:045-633-3760 (9:00~17:00 / 土日祝日・年末年始を除く)

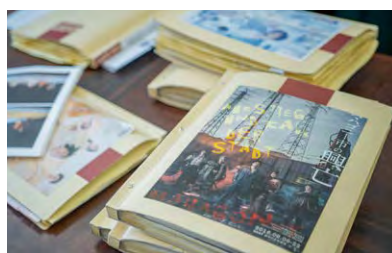


写真:大野隆介

——『アルトゥロ・ウイの興隆』では赤のアンサンブルが印象的でした。百年たっても原作者のベルトルト・

をスケッチしていきます。

——伊藤さんにとって衣装デザインとはどのような仕事ですか。

このコーナーでは「舞台裏」で公演を支えるスタッフの「技術」をお伝えしていきます。初回となる今回は2020年初演の『アルトゥロ・ウイの興隆』（2021年11月〜2022年1月再演）で衣装を担い、K A A T製作のほかの演目でも数多くの衣装を手がける伊藤佐智子さんにお話を伺いました。

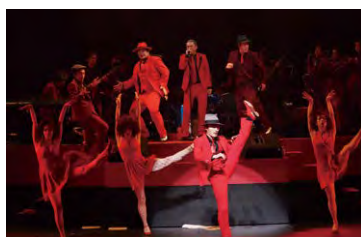


写真:田中亜紀

——舞台衣装の仕事の面白さは？

ブレヒトの存在感は圧倒的で作品全体を通して色の配置や変化は時代を越えて重要な要素です。演出の白井晃さんから「赤を使いたい」とお話があり、私も赤はぴったりだと思いましたが、赤一色だと全体が平板になってしまふ。それで、赤がより挑発的に見えるように、色相が少しず違う赤で構成しました。素材や染料、照明との組み合わせによって色が違って見えるのも衣装の面白いところですね。

公演の裏舞台

衣装デザイナー編

聞き手・文:山崎健太

衣装デザイナー

伊藤佐智子

【いとう・さちこ】ファッション クリエイター。映画、演劇、そして時代の流れを象徴する広告の中で、一点ものにこだわった衣装を提案。衣装はもとより、1枚の布からはじまる様々な表現を、ジャンルを越えてクリエイションする。東京2020パラリンピック開会式衣装ディレクター。

神奈川芸術プレス 読者アンケート

神奈川芸術プレス(vol.159)をお読みいただき、ありがとうございました。アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で1組2名様を、2022年3月26日(土)15:00開演「C × Baroque(シー・バイ・バロック)大塚直哉が誘うバロックの世界 Vol.1」(神奈川県民ホール 小ホール)にご招待いたします。今後の誌面づくりに生かすため、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。

応募方法: 「WEBアンケートフォーム」もしくは「はがき」で、アンケートの答えと、メールアドレスを明記のうえ、ご応募ください。
WEBアンケートフォーム: <https://krs.bz/kanagawaaf/m?f=225>

はがき郵送先: 〒231-0023 横浜市中区山下町3-1 (公財)神奈川芸術文化財団 神奈川芸術プレス読者アンケート係
回答期限/はがき必着: 2022年2月28日(月)

当選発表: 厳正なる抽選の上、当選者の発表はメール送信をもってかえさせていただきます。

・当選に関するお問い合わせには回答いたしかねます。

・当選通知メールは、kaf@kanagawa-af.orgのアドレスから送付予定です。

上記ドメインからのメールを受信できるよう、設定をご確認ください。

・メールアドレスの間違い等でメールが送信できない場合は、当選を無効にさせていただきます場合があります。

※お申し込み時にいただいた個人情報は、当選通知以外の目的には使用いたしません。



WEBアンケートフォームはこちら

アンケート項目

1. リニューアルした神奈川芸術プレスはいかがでしたか。ご意見・ご感想を教えてください。
2. 今号で印象に残った記事を教えてください。
3. 次号以降、読んでみたい特集テーマがあれば教えてください。
4. 今気になっている「ひと」や「こと」、「場所」などがあれば教えてください。
5. 神奈川芸術プレスをどこで手に取りましたか？

神奈川芸術プレス vol.159

2022年(令和4年)1月25日 発行

発行：公益財団法人 神奈川芸術文化財団

TEL：045-663-3711

企画・制作：公益財団法人 神奈川芸術文化財団／株式会社ボイズ／一般社団法人ノマドプロダクション

編集：米津いつか、白尾芽・中村元哉 (voids)

デザイン：岡部正裕 (voids)＋三浦佑介 (shubidua)

イラストレーション：白尾可奈子

取材・執筆協力：齊藤真菜 (Arcade Books)

校正・校閲：聚珍社

印刷：深雪印刷

【禁無断転載・複写】無料配布

※本誌掲載情報は2022年1月11日現在のもの